

3. 中間報告に対する意見の整理

市では、文化交流拠点施設の整備について、平成 26（2014）年 10 月に公表した『我孫子市文化交流拠点施設整備 調査研究報告書』の内容や、平成 26 年度以降の新たな視点、市民から寄せられた意見等を踏まえ、「建設構想（案）」のとりまとめを行いました。

その過程において、検討状況を平成 30（2018）年秋に中間報告としてお示しし、市民の皆さんから幅広いご意見やご提案をいただきました。

本章では、中間報告に対していただいた意見等を整理し、市の考え方を示しています。

【意見募集の実施状況】

実施期間：平成 30（2018）年 11 月 10 日（土）～12 月 27 日（木）

実施方法：

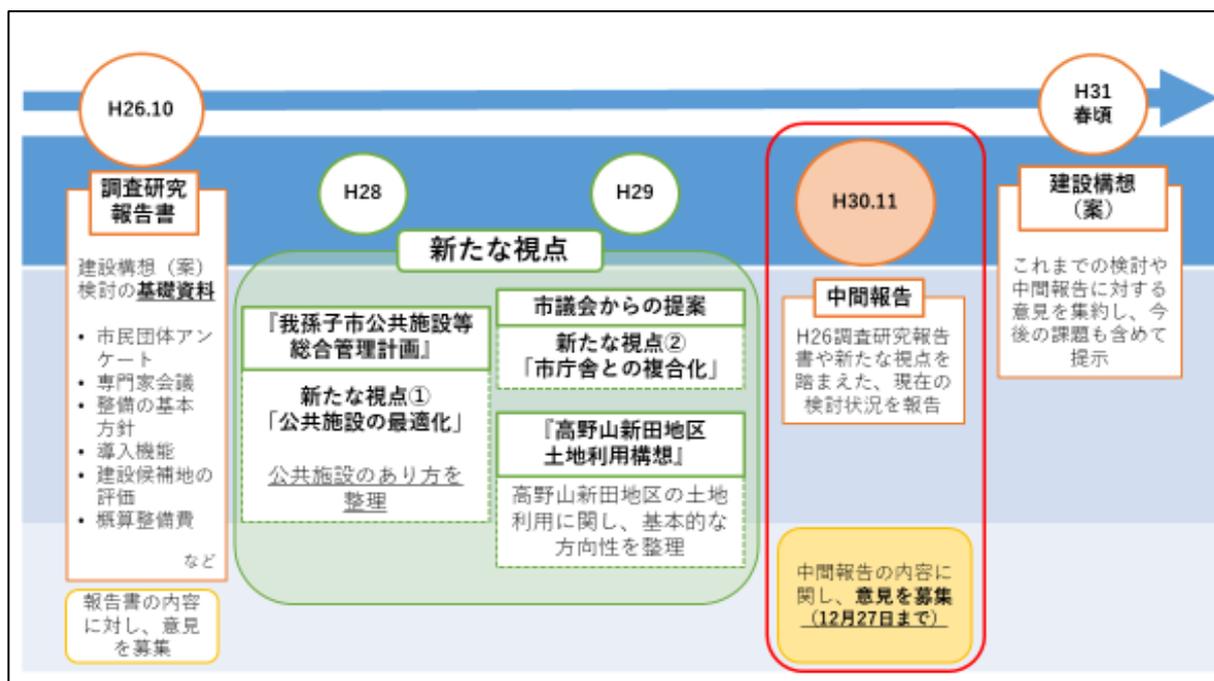
1. 秋の市政ふれあい懇談会において、中間報告の内容を提示するとともに、参加者から意見を聴取。
2. 下記の資料を、市ホームページの掲載したほか、公民館や図書館、行政サービスセンター、近隣センター等 26 か所に配置し、意見募集を実施。
 - 文化交流拠点施設 建設構想（案）とりまとめに向けた中間報告
 - 文化交流拠点施設 建設構想（案）とりまとめに向けた中間報告【説明文】
 - 『我孫子市文化交流拠点施設整備 調査研究報告書』概要版
 - 『我孫子市文化交流拠点施設整備 調査研究報告書』

提出された意見：

1. 市政ふれあい懇談会では、10 人から意見等の発言がありました。
2. 意見募集では、44 件の個人・団体から、文書により意見等が提出されました。

(1) 総論

① 中間報告の内容



市は、「文化交流拠点施設 建設構想（案）」検討の基礎資料として、平成 26（2014）年 10 月に『我孫子市文化交流拠点施設整備 調査研究報告書』を公表しました。

その後、国からの要請に基づき、約 2 年をかけて、将来の人口予測や財政状況を踏まえ、市全体の公共施設について今後のあり方を整理した『我孫子市公共施設等総合管理計画』を、平成 28（2016）年 6 月に策定しました。

また、調査研究報告書で、建設候補地として最も評点の高かった高野山新田地区の将来の土地利用の考え方をまとめた『高野山新田地区 土地利用構想』を、平成 29（2017）年 10 月に策定しました。

さらに、市議会から提案のあった、市庁舎との複合化についても検討を行いました。

以上の平成 26 年度以降の新たな視点を踏まえ、「建設構想（案）」をとりまとめていきます。

② 提出された意見等の整理

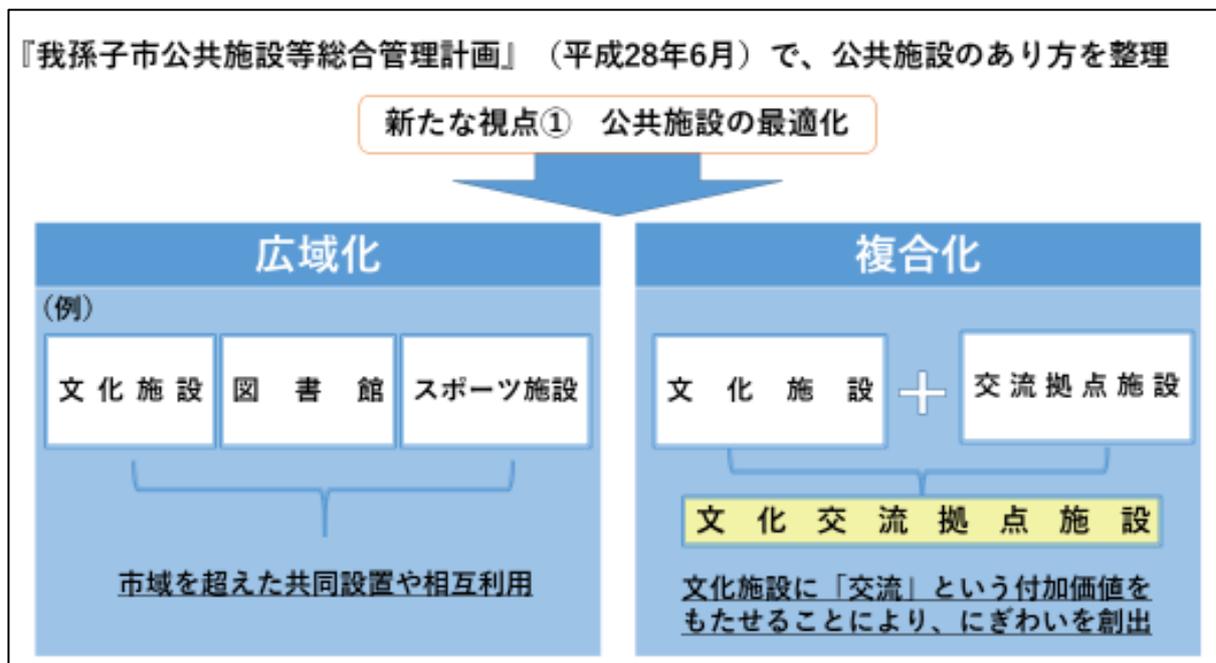
- 「平成 26 年度の調査研究報告書と照合しなければ分からない部分が多く、意見の少なさが市民の文化交流拠点施設への関心の薄さを表すものではない」という意見がありました。
- 今後の進め方として、「平成 26 年度以前に行われてきた研究や検討で述べられた意見を踏まえてほしい」、「利用者の気持ちをもっと汲み、話し合いの場を作ってほしい」など、検討段階から市民との密なコミュニケーションを求める意見がありました。
- 文章上の表現として、「歴史文化遺産」という表現や、「世代を超えた交流」という表現を明確にしてほしいとの意見がありました。
- 「中間報告の内容には、これまでの意見が反映されていない」という意見がありました。

③ 意見等に対する市の考え方

- 「建設構想（案）」のとりまとめにあたり、これまでに様々なご意見等をいただいています。今後の検討においても、引き続き、市民等から幅広く意見を聴くものとし、その際には、意見交換の場をつくるなど、検討の進め方についても工夫します。
- これまでの研究・検討でいただいた意見等のうち、デザインや設計等にかかわる意見等の集約については、本建設構想（案）のとりまとめ後に行う建設構想の検討など、必要な段階において踏まえるものとしします。
- 「歴史文化遺産」、「世代を超えた交流」という表現については、前章の内容で読み取れるようにしました。

(2) 文化交流拠点施設とは？

① 中間報告の内容



『我孫子市公共施設等総合管理計画』は、長期的・計画的な視点で「公共施設の最適化」を進めていこうというものです。「公共施設の最適化」には、「広域化」と「複合化」という考え方が含まれています。

「広域化」とは、誰もが使う施設は、市域を超えた共同設置や相互利用を検討するという考え方です。

「複合化」とは、異なる機能を1つの施設にまとめて、整備や運営の効率化とサービスの向上を同時に実現しようという考え方です。

以上を踏まえると、文化交流拠点施設は、「文化施設」に「交流促進機能」を付加することで、にぎわいを創出し、交流人口の拡大を目指す複合施設となります。

② 提出された意見等の整理

「より多くの人に利用してもらうため、文化施設に交流促進機能を付加し、にぎわいの創出を目指す」という考えに肯定的な意見がある一方で、「いろいろな施設を追加して、建設費用を高くすることに反対」という意見もありました。

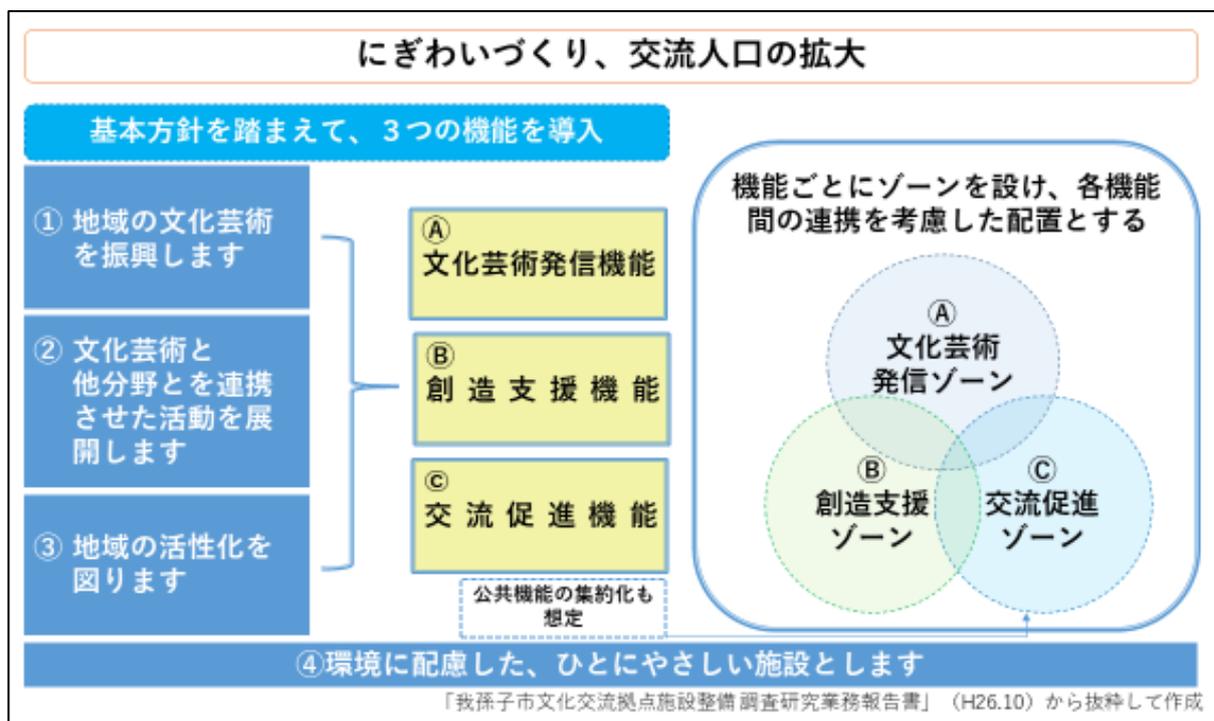
③ 意見等に対する市の考え方

市の財政状況や、今後も見込まれる人口減少・少子高齢化などを見据えると、1つの市で全ての施設を所有し、維持していくことは難しいと考えています。

『我孫子市公共施設等総合管理計画』で考え方を整理していますが、施設の整備・更新の検討にあたっては、機能の複合化や他市にある施設の老朽化に合わせた広域化も含めて、考えていく必要があります。

(3) 文化交流拠点施設が目指す姿

① 中間報告の内容



文化交流拠点施設の整備にあたっては、調査研究報告書で示した4つの基本方針（上記①～④）に基づきます。各基本方針の考え方は、次のとおりです。

基本方針	考え方
① 地域の文化芸術を振興します	市民がさまざまな文化芸術を創造・発表・鑑賞することができる施設を整備することにより、地域の文化芸術を振興
② 文化芸術と他分野とを連携させた活動を展開します	文化芸術と他分野（地域研究、教育、生涯学習、市民活動、健康福祉等）とを連携させた活動を展開できる施設を整備することにより、まちづくりを効果的に推進
③ 地域の活性化を図ります	市内外の人々を惹きつける施設・運営を提供することにより、交流人口を拡大し、地域の活性化を図る
④ 環境に配慮した、ひとにやさしい施設とします	自然環境や省エネに配慮し、自然エネルギーを活用した施設、だれもが利用しやすい施設を整備

また、3つの機能（上記④～⑥）を導入し、それぞれの機能ごとにゾーンを設けて、各機能の連携を考慮した配置を目指します。各機能が想定する利用方法や諸室は、次のとおりです。

機能	想定する利用方法や諸室
④文化芸術発信機能	<ul style="list-style-type: none"> • 市民等が活動を発表したり、文化芸術等を鑑賞したりするための機能を想定 • ホール機能やギャラリー機能（展示スペース含む）を想定
⑤創造支援機能	<ul style="list-style-type: none"> • 市民が自由な発想で創作活動を行うための機能を想定 • 創作活動を通して、施設に関わっていく人たちが、運用方法、利用方法など施設のあり方そのものについても創造していくことを想定
⑥交流促進機能	<ul style="list-style-type: none"> • 文化芸術活動を軸に、さまざまな交流を生み出すための機能を想定 • にぎわいの創出につながる機能や、施設を管理運営する機能の導入を想定

② 提出された意見等の整理

基本方針や導入機能に対する意見はありませんでした。

③ 意見等に対する市の考え方

引き続き、4つの基本方針に基づいて整備の検討を行います。また、検討にあたっては、3つの機能の導入を目指すこととします。

(4) 建設予定地、同地区への整備で期待される効果

① 中間報告の内容



建設候補地は、調査研究報告書で最も適しているとされた「高野山新田地区」を選定しました。同地区は、「手賀沼の水辺を活かした賑わいづくり」を進める場所として、整備に取り組んでいます。その中でも、「A エリア」を建設予定地に設定しました。

「Aエリア」は手賀大橋から水の館周辺までの範囲を指し、『高野山新田地区土地利用構想』では、「幅広い世代を呼び込む賑わいの創出」を活用コンセプトとしています。

また、高野山新田地区 A エリアへの整備により、「周辺施設等との連携による相乗効果」が期待されます。周辺には、水の館や鳥の博物館、白樺文学館、旧村川別荘といった施設が点在しています。また、手賀沼に面し、ウォーキングやサイクリング等でも多くの人を訪れる場所でもあります。

こうした資源を上手に活用し、連携させることで、賑わいを生み出し、交流人口の拡大につなげていきたいと考えています。

② 提出された意見等の整理

- 「高野山新田地区」を建設候補地とすることについて、「我孫子の美しい場所であり、劇場ができたとしたら、全国的にも有名になると思う」、「現実的な英断である」など肯定的な意見がありました。
- 「高野山新田地区」について、鉄道の駅から離れていることや、バス等の公共交通機関の本数が少ないことなどから、交通アクセスの充実や駐車場の確保を求める意見が多くありました。
- 建設候補地として、「駅周辺」や「高野山桃山公園敷地」、「下ヶ戸地区」、「市域の東西のバランス発展のため、气象台記念公園」などを挙げる意見がありました。
- 「賑わいづくりとして市外の人を呼び込むような案になっておらず、非常にクローズされている」という意見がありました。

③ 意見等に対する市の考え方

- 市では、文化芸術を軸として多様な交流を生み、にぎわいづくりにつなげていきたいと考えています。そのため、新たな文化交流拠点施設の建設予定地は、今後も「高野山新田地区」に設定して、検討を進めていきます。
- 市外から人を呼び込むような工夫も含め、今後もさまざまな意見を聴きながら、にぎわいづくりにつながるような施設となるよう、検討していきます。
- 施設整備にあたっては、交通アクセスの充実や駐車場の確保も併せて検討する必要があると考えています。

- なお、高野山新田地区への公共交通として、土曜・日曜・休日は、我孫子駅や天王台駅から鳥の博物館を経由する路線バスが運行しています。また、平日は、天王台駅と東我孫子駅から、水の館や市役所などを巡回する「アイバス」（民間運営のコミュニティバス）が運行しています。

(5) 文化交流拠点施設に導入する3つの機能

① 中間報告の内容

A 文化芸術発信機能		B 創造支援機能	C 交流促進機能
ホール機能	大ホール (1,000席前後) 小ホール (300席前後)	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりスタジオ 多目的スタジオ 手賀沼の眺めを活かした空間 	<ul style="list-style-type: none"> フリールーム[再掲] オープンスペース 手賀沼アクティビティの拠点 ショップ・フード 手賀沼の眺めを活かした空間 [再掲] イベントスペース (屋外・全天候対応型)
ギャラリー機能 <small>※1…劇場などのロビー ※2…運物の入り口部分</small>	展示室 フリールーム ホワイエ※1 エントランス※2		
<p>(補足)</p> <p>○創造支援機能のうち、 調査研究報告書で想定された「キッチンスタジオ」は、近隣センターとアビスタの施設を活用する。</p> <p>○交流促進機能のうち、 調査研究報告書で想定された「農産物直売所」と「レストラン」は、水の館施設への誘導を工夫する。</p>			

「文化芸術発信機能」は、1000席規模の大ホールと300席規模の小ホール、企画展示ができるような展示室、展示の規模によってレイアウト変更ができるようなフリールームなどを想定しました。

「創造支援機能」は、ものづくりスタジオや多目的スタジオのほか、絵画スペースとしても利用できるような、手賀沼の眺めを活かした空間活用を想定しました。

「交流促進機能」は、手賀沼アクティビティの拠点となるような機能、屋外空間を活用したイベントスペースなどを想定しました。

② 提出された意見等の整理

(ア) 文化芸術発信機能のうち、ホールについて

- 座席数について、「コスト面から300席の小ホールのみ」、「数十年先を考えた時、市民の施設として1000席規模は必要なのだろうか」という意見から、「1500席は必要」という意見まで幅広くありました。
- 機能について、「音響の優れたホール」を期待する意見がある一方で、「立派すぎるものは作らないでほしい」という意見もありました。

- ホールの主目的として、「市民利用型」の施設が賑わいを創るという意見がある一方で、「市外からも人々が参集する」、「興行収入を得られる」ような施設にした方が良いという意見もありました。
- (イ) 文化芸術発信機能のうち、ギャラリーについて
- 多目的に利用できるよう、「臨機応変に広さを変えられる」、「気軽に利用できる」ようなギャラリーを求める意見が多くありました。
 - 歴史文化遺産の常設展示スペース・情報発信専用スペース・保管庫の導入を求める意見がありました。
- (ウ) 創造支援機能
- 芸術分野に限定せず、各団体の発表の場としての使いやすさが求められています。
 - 近隣センターで機能充分なため、ものづくりスタジオ等は不要という意見がある一方で、既存施設では対応できない活動があるという意見がありました。
- (エ) 交流促進機能
- 中間報告では、「レストランは水の館施設への誘導を工夫する」としましたが、「美味しいレストランを併設してほしい」という意見がありました。
 - 「会議室や学習室は既存施設で必要十分」という意見がある一方で、「既存の施設では、練習・勉強会場を確保することに苦勞しており、ミーティングルームを増設してほしい」という意見がありました。
 - 「授乳スペースがあると、若いお母さんたちが出向きやすくなる」という意見がありました。
 - このほか、展望デッキや交流デッキ、ヨットの浮棧橋、野外ステージ等を希望する意見がありました。

③ 意見に対する市の考え方

(ア) 文化芸術発信機能のうち、ホールについて

- ホールの規模や機能について、市民の間でも持つイメージや求めるものが多様にあり、現段階では1つの方向性に集約することは困難です。そのため、引き続き市民の意見を幅広く聴きながら、方向性を検討する必要があると考えています。

- 『我孫子市公共施設等総合管理計画』の考え方に基づくと、ホールの座席数は、湖北地区公民館（250席）やけやきプラザふれあいホール（551席）等の既存施設と重複しないよう、検討していく必要があると考えています。
 - 「二度に分けて行っている成人式を一度に行いたい」という意見もあったため、平成27（2015）年7月に実施した『我孫子市第三次基本計画 人口の見通し』の基礎データをもとに、将来の成人式への出席者数を試算し、参考に提示します。
- (イ) 文化芸術発信機能のうち、ギャラリーについて
- 多様な使い方ができるようなギャラリー機能を検討します。
 - 歴史文化遺産の展示・保管等の機能について、必要な施設（スペース）の導入の実現可能性も含めて検討していきます。
- (ウ) 創造支援機能
- 近隣センター等と機能が重複しないよう考慮し、引き続き市民の意見を幅広く聴きながら、利用ニーズの高い機能の導入を検討していきます。
- (エ) 交流促進機能
- レストランの設置や授乳スペース機能、野外ステージの導入など、多様なアイデアが出されています。周辺施設等との機能の重複や既存施設の利用状況、周辺環境への影響などに考慮し、引き続き市民の意見を幅広く聴きながら、利用ニーズの高い機能の導入を検討していきます。

(6) 文化交流拠点施設の想定規模

① 中間報告の内容

	延床面積	建築面積	敷地面積	建物の高さ
文化交流拠点施設	8,100～8,600㎡ ◇内訳 ・文化芸術発信機能…5,900～6,200㎡ (ホールとエントランス部分が、約4,600㎡) ・創造支援機能…400㎡ ・交流促進機能…1,400～1,600㎡ ・管理運営部署…400㎡	約6,200㎡ 1階部分にホール、エントランス、交流促進機能の配置を想定	約14,000㎡ ・駐車場(228台)…6,840㎡ ・イベントスペース…1,000㎡	30m程度
新たな視点② 市庁舎との複合化				
建設予定地で複合化する場合の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・アクセス性 ・大規模災害時の防災拠点としての機能に影響 ・建物の高層化による景観への影響 (参考：現庁舎延床面積 約9,000㎡) 		導入可能な庁舎機能 文化交流拠点施設の3つの機能を管理運営する部署 想定延床面積 約400㎡		

施設の想定規模は、ホール等の面積を積み上げると、延床面積は 8,100～8,600㎡となりました。

建築面積は約 6,200㎡、敷地面積は、約 230 台分の駐車場とイベントスペースを加えて、約 14,000㎡としました。

建物の高さは、他市の文化施設を参考にすると 30m 程度になると想定され、これは水の館の展望室と同程度です。

市庁舎との複合化については、主に3つの課題があります。

1点目は「アクセス性」で、我孫子駅と天王台駅から建設予定地までの公共交通機関が、現状では少ないことです。

2点目は「大規模災害時の防災拠点としての機能に影響すること」です。「あびこハザードマップ」では、建設予定地は洪水時の浸水想定区域に位置しています。大規模な水害が起きた場合には、駐車場や周辺道路の浸水が想定され、防災拠点として機能することが難しくなると考えられます。

3点目は「建物の高層化による景観への影響」です。現庁舎の延床面積が約 9,000㎡あり、すべてを複合化すると建物の大部分が水の館の展望室を超える高さとなり、景観上の課題が生じる可能性があります。

これらの課題を踏まえると、高野山新田地区 A エリアにおいて、にぎわいづくりを目指す文化交流拠点施設と、防災拠点機能を有する市庁舎を複合化し、2つの機能を両立させることは難しい状況です。

② 提出された意見等の整理

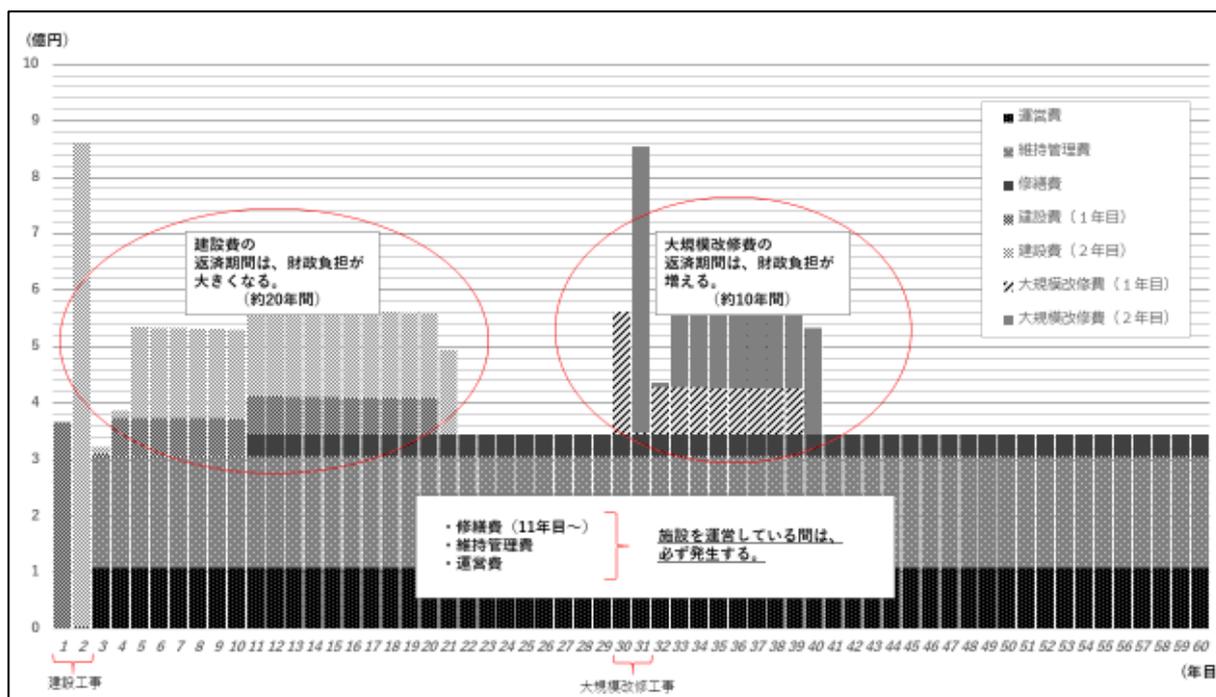
- 中間報告のとおり、市庁舎との複合化は望まないという意見がありました。
- 一方で、現市庁舎が、建設から時間が経過していることや分散していること、財政負担の軽減等から、市庁舎と文化交流拠点施設との複合化を望む意見もありました。

③ 意見等に対する市の考え方

現段階では、中間報告で示したとおり、市庁舎とは複合化しない方向で、文化交流拠点施設の整備を検討していきます。なお、市庁舎の更新については、本件とは別に検討することとしています。

(7) ライフサイクルコスト (LCC) を 60 年とした場合の財政負担

① 中間報告の内容



財政負担については、『我孫子市公共施設等総合管理計画』に基づき、ライフサイクルコストを 60 年として試算しました。ライフサイクルコストとは、施設を建てるためにかかる費用のほか、使い続ける間に必要な費用を含めた、施設の一生涯にかかる費用のことを言います。資料には、ライフサイクルコストに運営費も含めて、年間にどのくらいの財政負担が必要になるかをグラフで示しています。

算出の基礎となる建設費は、調査研究報告書の建設費単価 56 万円/㎡を基準としました。試算結果は、延床面積 8,600 ㎡で、建設費は約 48 億円となりました。

60 年の間には、大きく 2 つの山が訪れます。

1 つめの山は、建設の時期です。初めの 2 年で、建設費のうち地方債で借り入れる約 36 億円を除いた、約 12 億円を頭金として支払います。今回の試算では、支払額は 1 年目が約 3 億 7 千万円、2 年目が約 8 億 5 千万円となりました。その後は、借り入れた約 36 億円の償還が約 18 年間続きます。償還額は、毎年約 2 億 1 千万円と試算しました。

2 つめの山は、大規模改修の時期です。建設から 30 年目に、大規模改修費として建設費の 6 割、約 28 億円が必要になると算出しました。初めの 2 年で、

大規模改修費のうち地方債で借り入れる約 21 億円を除いた、約 7 億円を頭金として支払います。その後は、借り入れた約 21 億円の償還が約 9 年間続きます。償還額は、毎年約 2 億 4 千万円と試算しました。

施設を運営している間には、維持管理費と運営費がかかります。また、建設後 10 年目あたりからは、設備などに不具合が出始めることが想定され、修繕費も必要となってきます。これらの固定的な費用が年間約 3 億 5 千万円になると見込みました。

以上のことから、文化交流拠点施設を建設すると、建設費や大規模改修費の償還が必要な時期には、最大で 6 億円前後、償還のない時期でも約 3 億 5 千万円の財政負担が必要になります。

ただし、この試算には、計画によって大幅に変わる可能性のある用地取得費や造成工事費などの支出と、施設利用料などの収入は見込んでいません。なお、文化交流拠点施設を建設することで必要となる費用負担は、収入を増やす工夫をすることで、軽減できる可能性があります。

② 提出された意見等の整理

- 試算した建設費や維持管理・運営費等について、歳入に対し重すぎるという意見がありました。
- 中間報告での試算には、用地取得費や造成費が含まれていないため、おおよその金額の提示を求める意見がありました。
- 財政負担については、丁寧な説明が必要であり、「整備の是非も含めて幅広く意見を聴いていく」際の重要な判断材料になるとの意見がありました。
- 「駐車場収入がどのくらいになるのか、収入として外からのお客さんをどのくらい見込んでいるのか、その方々にお金を落としていただくよう、その方法を考えた方が良い」という意見がありました。
- 「クリーンセンターの建設や消防署の移転など、様々な施設を建設していく中で、文化交流拠点施設を建設すると、毎年相当のお金がかかる。この計算で我孫子市は財政的に大丈夫なのか」という意見がありました。

③ 意見等に対する市の考え方・対応

- 用地取得費について、建設候補地は私有地であり、地権者と用地交渉をしていない時点で具体的な数字を提示することは難しいと考えています。

- 造成費について、建物の計画や規模によって大きく変わってくることから、現状では、具体的な数字を提示することは難しいと考えています。
- 市の財政の動向や今後予定している大規模事業の費用試算結果なども提示しながら、引き続き、幅広く意見を聴いていけるよう工夫していきます。
- 収入の見込みについては、施設の機能・規模の方向性や利用者の皆様にどのくらいの負担をいただけるのかなど、今後の検討と併せて試算できるよう工夫していきます。

(8) 財源確保・整備手法・運営手法

① 中間報告の内容

<p>財源確保</p> <p>1. 施設整備のための財源確保の工夫 ◆我孫子市文化施設整備基金 平成29年度末残高 664,100千円</p> <p>2. 運営の工夫による財源の確保 ◆施設利用料 ◆興行収入 ◆駐車場収入 ◆ネーミングライツ など</p> <p>整備手法・運営手法</p> <p>PFI手法導入の検討</p> <p>民間と連携して公共サービスを提供することで、民間の創意工夫・技術力・資金を活用し、財政負担の平準化や行政の効率化等を図る。</p> <p>我孫子市の導入事例： ○指定管理 …市民プラザ、市民体育館など ○公設民営（DBO）方式 …新クリーンセンター（検討中）</p>

現在、文化交流拠点施設の整備に必要な財源を確保するため、「文化施設整備基金」を設けており、これまでに約6億6千万円を積み立てています。

また、運営の工夫には、施設利用料や興行収入、駐車場収入があり、施設の命名権を付与する「ネーミングライツ」も財源を確保する方法の一つです。

文化交流拠点施設の整備には大きな費用負担が見込まれるため、整備や運営の手法についても十分な検討が必要です。

PFIも、その手法の一つです。PFI手法とは、民間の創意工夫や技術力、資金を活用して公共サービスを提供し、財政負担の平準化や行政の効率化を図るものです。

今後、文化交流拠点施設を整備する場合には、PFI手法の導入を優先的に検討し、効率的・効果的に、より良いサービスを提供できるよう、工夫していくことが求められます。

さらに、機能的に重複する施設を統廃合することにより、その管理運営費を文化交流拠点施設に集中することも必要です。

② 提出された意見等の整理

- デザインコンペを行うことや、県内優良企業へのヒアリングの実施など、整備手法・運営手法の工夫に対する提案があった一方で、我孫子市は大企業にとって投資効果があるとは思えず、企業によるネーミングライツやPFIをあてにしているといけないという意見もありました。
- 建設を希望する意見が多数あげられました。その一方で、市の財政状況や事業の優先順位等の観点から、建設を反対する意見もありました。
- 市の総予算額に応じた建設プランが基本であり、例えとして、自己予算が20億円しかなければ、20億円で建設できるものにすべき、という意見がありました。
- 交流人口や定住化を進めるためにも人が集まる魅力ある文化施設が必要であり、住民の意見がどっちということだけでなく、市のためにはどうしたらいいか、どうしていききたいかも考えて計画を進めてほしい、という意見がありました。
- 運営についてPFIも検討の中にあるが、コストを下げる目的だけのような運営ではなく、地元の方々が楽しく働けるような、地元が潤いながらできるようなことを考えてほしい、という意見がありました。

③ 意見等に対する市の考え方・対応

- 施設の整備・運営については、中間報告のとおり、PFI方式を優先的に検討します。また、施設の建設については、なるべく多くの民間資金を投入したいと考えています。民間の資金や経営能力、技術的能力を活用することを見据えながら、引き続き検討していきます。
- 今回の意見募集では、建設を希望する意見が多数を占めるものの、建設に反対する意見が一定数あることから、さらに多くの市民等から、建設の是非を含めて幅広い意見が出されるよう、工夫する必要があると考えています。
- 意見のとおり、市の総予算額に合わせた計画が必要です。しかし、現状では、仮に自己予算額を20億円とした場合、アビスタよりも小規模となる可能性が高い状況です。そのため、市民ニーズに合った文化交流拠点施設の整備ができるかどうか課題となります。
- 施設の整備・運営方法ではPFI方式を検討します。建設については、なるべく多くの民間資金を投入できる方法を検討します。また、運営に

については、市民の皆さんにどれだけ参画していただけるかを意識しながら考えていきます。